

令和3年度(2021年度)
厚生労働科学研究費補助金(エイズ対策政策研究事業)
分担研究報告書
拠点病院集中型のHIV診療から、地域分散型のHIV患者の医療・介護体制の構築
透析患者、CKD患者における地域連携
研究分担者 矢幅 美鈴 千葉大学医学部附属病院 感染制御部 助教

研究要旨：エイズ拠点病院集中型から地域連携を重視したHIV診療体制の構築で課題となるのは拠点病院以外のどの病院でHIV感染者の診療を担うのかである。本研究では血液透析を要するHIV感染者の診療体制の整備が目的であり、本年度は千葉県透析医会を主体とした千葉県透析ネットワークを構築した。

A. 研究目的

HIV感染者の長期予後が見込めるようになり、それに伴いHIV感染者の高齢化が顕在化してきている。高齢化により糖尿病をはじめとした生活習慣病の合併が増加しており、腎機能障害を生じた患者も稀ではない。HIV感染者においても慢性維持透析が必要な患者数の増加も見込まれている中、厚生労働省からは全国の都道府県に対し、HIV感染患者の維持透析を行う透析施設のネットワーク作りが求められている。千葉県においても透析患者の診療体制の整備のため透析ネットワークの構築を行うことを目的とする。

B. 研究方法

千葉県透析医会の透析ネットワークの立ち上げのための情報提供を行った。透析医会の総会等でHIV感染症の基礎知識や感染予防についての知識の向上のためのセミナーを行ったり、また運用されている他の都道府県(北海道)などの透析ネットワークに関する情報提供を行った。

C. 研究結果

令和4年には千葉県の透析ネットワークを構築した(事務局：誠仁会 みはま病院)。登録病院は現在1施設のみ。

D. 考察

透析ネットワークの構築はできたが、まだ登録施設数が少ない。実際には千葉県内でHIV患者の透析を行っている医療機関は複数あるため、今後登録施設数を増やしていく必要がある。そのために引き続きHIVや感染対策に関する知識の提供などを含め、登録施設を増やすためにできることを検討していく必要がある。

E. 結論

千葉県透析ネットワークを構築した。

F. 健康危険情報

現時点で、該当事項はなし。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし